

特別展「アルゼンチンの大恐竜展」 を終えて



今回の特別展（1997年4月25日～6月8日）は、アルゼンチンをはじめとした南半球型の恐竜化石の紹介であった。

展示は4つのテーマからなり、「超大陸パンゲアの時代」、「恐竜の進化とゴンドワナ大陸」、「南アメリカにいた哺乳類」、「人類、南アメリカへ」という内容。

その内容を簡単に紹介すると、「超大陸パンゲアの時代」では、恐竜時代以前の、最古の化石のコレニア、古生代の海に栄えた三葉虫、腕足類、筆石、大陸移動の証拠のメソサウルスなどを展示。

「恐竜の進化とゴンドワナ大陸」では、南アメリカで栄えた恐竜の展示が中心。中でも、最古の恐竜のエオラプトル、世界最大の恐竜の一つアルゼンチノサウルスの脊椎骨、世界最大の肉食恐竜ギガノトサウルスの頭骨、頭に角を持ったカルノタウルス、背中に刺突起を持った珍しい恐竜のアマルガサウルスなどは人気があった。また、クリトサウルス、パタゴサウルス、ピアトニツキサウルスなど大型の恐竜類、魚竜、翼竜、それにブラジルの魚化石や昆虫類の化石も展示された。

「南アメリカにいた哺乳類」、「人類、南アメリカへ」では、かつて南アメリカだけに棲んでいたマクラウケニア、トクソドン、チラコスミルス、

巨大アルマジロなど大型の哺乳類と、ステゴマストドン、スミロドン、カピバラ、それに化石人骨などを展示。

4、5、6月という厳しい展示期間であったが、3万人余の入館者があった。特に、土曜など多くの子どもたちが見学し、巨大な恐竜を見上げて歓声をあげたりするのを見ると準備の苦勞も忘れる思いであった。その時、「恐竜へ子らの目が跳ぶ五月晴」などと、俳句を作ってみたものである。残念なのは、高校生の観覧者や学校の団体見学が少なかったこと。時期なども含め、今後の特別展の反省点の一つである。最後に、子どもたちの感想文を幾つか紹介する。

「ずっと前にこんな大きな生き物が住んでいたなんてとてもびっくりしました。私たち人類が生まれる前にも、ほかの生物たちがいたんだなあ」、「いろんなきょうりゅうやはじめて見るきょうりゅうがいっぱいいた。なかでもきょうりゅうのたまごがすごかった。」「わたしがいちばんふしぎだとおもったきょうりゅうがいました。それはアマルガサウルスです。せなかにトゲのあったきょうりゅうははじめて見たからです。」

～ 次回特別展のお知らせ ～

「包むころ ふろしき」展

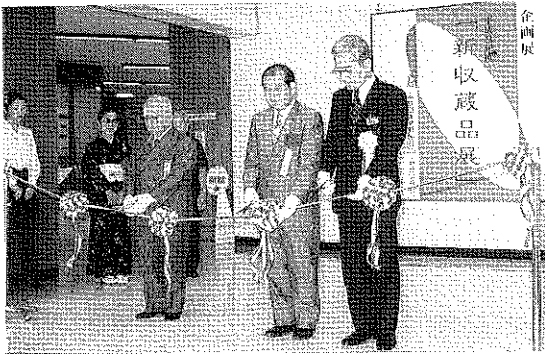
会期：平成10年11月17日（火）

～12月20日（日）

江戸初期から昭和初期までの風呂敷実物資料120点を時代別、用途別、文様別のテーマで紹介します。

※詳しくは、ポスター・チラシまたは当館へお問い合わせ下さい。

『平成8年度 新収蔵品展』



オープニングセレモニー

現在、当館には約7万3千点余りの資料が収蔵されています。これらの資料の大半は、一般の方からの寄贈で、県内外さらに外国から多くの方の様々な資料の提供があり、年毎に当館の収蔵品は充実しています。その他、購入・収集及び他の公共機関からの移管などによって資料の収集が行われています。

当館では、このような新しく収蔵された資料を中心に「新収蔵品展」を毎年開催しています。「新収蔵品展」は、前の年度に収蔵された資料を紹介するもので、1972年から始まり、1997年で24回（1973年は無し）にもなります。平成9年度は、1997年7月29日（火）から8月31日（日）の1ヶ月間にわたり、2階企画展示室にて開催しました。今年度の新収蔵品は、ハワイの福田経子氏から陶器や書跡、佐賀県の齋藤用之助氏と福井県の矢袋繁雄氏の両氏から歴史資料、県内では島袋良徳氏や知名定義氏、村山盛一氏からの多くの民俗資料など、40名の方から貴重な資料の寄贈がありました。寄贈の他には、地質・動物、絵画・染織、歴史資料の購入、移管などがありました。

なお、平成10年度は、8月18日（火）から9月27日（日）に開催する予定です。

玉陵の石造扉（推定）が寄贈される

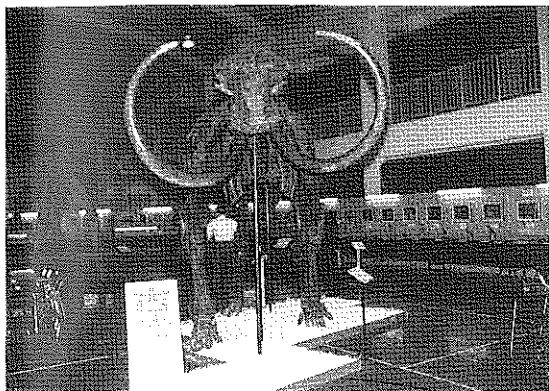
那覇市首里当蔵町の金城徳一さん（大正3年生）から、玉陵のものと推定される石造製の扉の一部が寄贈された。金城さんは首里当蔵生まれで、22才の頃からは大阪に住んでいた。戦後しばらくして沖縄に戻り、大名にある畑に行くと、そこで石製の扉を発見した。この石造扉の残欠は青年4～5人でトラックにのせ、大名から当蔵の自宅に運んだという。玉陵か浦添ようどれの石造扉と考え、保管してきたという。

石材は輝緑岩製で、大きさは縦685mm、横690mm、厚さ99mmである。1997年1月に博物館側で受け入れ、調査をおこなった。石造扉のサイズ、かみ合わせ、石彫のデザインや加工形態などの観点から比較検討をおこなった。その結果、おそらくは玉陵の中室か東室の右扉（向かって）の一部と推定された。6月6日に、金城さんも同席の上、記者会見をおこない、資料の紹介と、広く情報を求める会見をおこなった。同資料は1997年7月29日か

ら8月31日にかけての新収蔵品展で、その後歴史展示室入口でも展示紹介している。何かこの資料に関して、あるいは類似の情報をお持ちの方は博物館までご一報下さい。



第22回移動博物館 与那国町開催

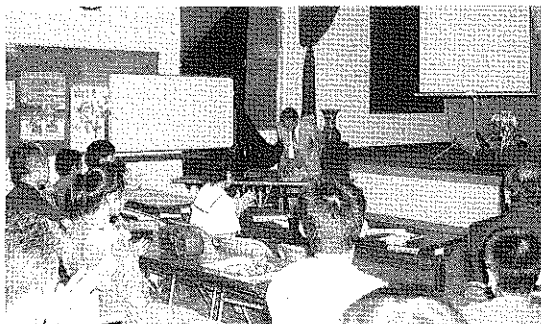


沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じておられる地域の方々に、博物館活動の一端にふれていただくため昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。平成9年度は22回目の開催にあたり、与那国町立与那国小学校体育館において、平成9年10月17日（金）～19日（日）の3日間開催いたしました。展示内容は自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の5分野からなり、高さ5メートルのサウロロフス骨格標本をはじめ、総展示数は273点に上りました。また、移動博物館開催期間中に、長年にわたり与那国の昆虫について、調査研究されておられる、琉球大学教授の東清二先生を講師に迎え、「与那国の昆虫について」という演題で、文化講座を与那国町立中央公民館で開催いたしました。講座では、与那国の豊かな自然と、そこに生息する多くの昆虫についてスライドを使いながら解説していただきました。

その他にも「自然観察会」を嵩原建二（県立博物館学芸員）の指導で、地元の小学生や父母を対象に実施し、与那国の野鳥を中心に、与那国の自然を観察しながら学習していただきました。

開会式では、与那国小学校の5、6年生と与那国中学校の生徒の皆さんが参加し、児童生徒を代表して児童会長の与那国小学6年生の岸本廣太君が、歓迎の挨拶を行いました。テープカットの後、小中学校の団体見学を行い、学年別に準備されたワークシートを使って、熱心に学習したり、学芸員に質問したりする姿が見られました。今回の移動博物館は小学校の体育館を使わせていただいたこともあり、展示作業中にたくさんの小学生が作業を見学し、少しずつ組み立てられていく恐竜の骨格標本を目のあたりにして、歓声を上げる姿が見られました。

今年度の移動博物館では、期間中1,274人の入場者があり、盛況のうちに閉会いたしました。



文化講座

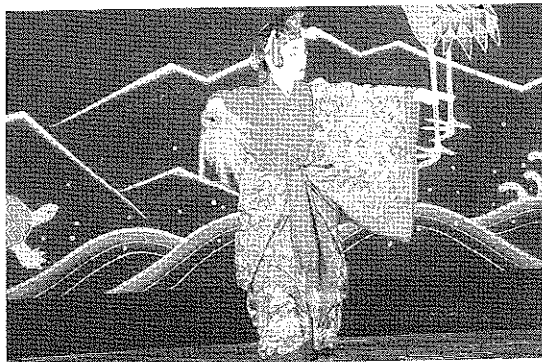
一九九七年十一月一日（土）から十六日（日）の十六日間にわたり、沖縄県教育委員会文化課主催、当博物館が共催の「史跡首里城跡「京の内」の出土品展」が二階企画展示室で開催されました。出土した資料の一部公開でしたが、全国でも出土例のない「紅釉水注」も公開され、最新の発掘成果を皆さんに紹介することができました。

企画展
史跡首里城跡
「京の内」の出土品展

一次回企画展のお知らせ

- ・「琉球王国時代の植物標本展
— ペリーが持ち帰った植物たち —」
会期：平成10年7月10日（金）
～8月9日（日）
 - ・「平成9年度 新収藏品展」
会期：平成10年8月18日（火）
～9月27日（日）
- ※ 詳しくは、ポスター・チラシまたは
当館へお問い合わせ下さい。

組踊「身替忠女」の上演



第4段 若按司の長刀踊り

平成9年2月2日に、241年ぶりに東風平町改善センターで上演された、組踊「身替忠女」を平成10年1月25日に特別文化講座として、当館講堂で上演し、3百数十名に見てもらい、好評を得た。

この組踊は、1756年の尚穆王（しょうぼくおう）冊封式典に、首里城内で上演されて以来の復活上演である。その時の冊封副使周煌の『琉球国志略』に内容紹介があるので、正式上演はまちがいない。その後、1800年、1808年、1838年、1866年の冊封式典余興芸能にもない。伊波普猷著『校註琉球戯曲集』に「最早見出すことが出来ない」と残念がった組踊であった。

幸いにも昭和63年9月に郵送されてきた、石垣市の伊舎堂家に保管されていた『組踊集』にあったので、翻刻し、物語が富盛城に関するものであったので、東風平町での上演になったのである。今後も重要無形文化財等を積極的に事業化し、地域住民をはじめ、県民のみなさんに見てもらおうべく計画していきたい。

文化講座

97年7月より、参加者のみなさんへのアンケートを実施しています。98年度のプログラムは、このアンケートからのみなさんの“声”を参考にしつつ企画しました。毎月1回文化講座へ足を運んで新たな発見をしてみませんか？

平成10年度文化講座のお知らせ

- ・ハワイ・ピニョップ博物館の活動 4月18日
- ・世界遺産について 5月16日
- ・生物の来た道 6月20日
- ・ペリーの日本遠征
—前進基地としての琉球王国— 7月18日
- ・琉球王国時代の作物 7月25日
- ・沖縄の村踊り 9月19日
- ・包むころ ふろしき
—特別展・展示解説会— 11月17日
- ・ふろしきの文化 12月5日
- ・野鳥観察会 1月16日
- ・ダスクめぐり 2月20日
- ・昭和期の中城御殿 3月20日

※ 内容など、詳しくはチラシまたは当館へお問い合わせ下さい。

夏休み

「歩く・見る・作る」教室

8月23・24日、竪穴式住居が復元された与那城町伊計島の仲原遺跡で古代の人々の生活を親子で体験しました。火おこし器を使っての“火おこし”にも挑戦し、なかなかつかない火に普段の生活の便利さを実感！古代の人々がおそらくそうであったように、竪穴式住居に親子で寝泊まりしました。自然とともに親子で過したこの2日間は、かけがえのない貴重な体験となりました。98年度からは「夏休み親子文化講座」として企画し、みなさんの参加をお待ちしています。



子ども体験学習教室

～いろいろなことに挑戦したよ！～



「豆腐づくり」脱穀の様子

平成9年度の子ども体験学習教室は、「昆虫標本作り」「シーサーづくり」「連凧づくり」、初め

て1年間を通した企画の「豆とサトウキビづくり」の4つの講座を実施しました。

「豆とサトウキビづくり」の前半は、大豆づくりを行いました。4月26日の種まきから始まり、8月2日に収穫した大豆を使って豆腐づくりに挑戦しました。昔ながらの道具を使っての作業は、子ども達にも好評でした。

後半のサトウキビづくりは、9月13日のうね立てから一連の作業を経て、2月14日には「黒糖づくり」に挑戦しました。初めての製糖工場見学、簡易しぼり機でのキビしぼり体験、みんなで協力して作った黒糖の味は忘れられないものとなりました。充実した子ども体験学習教室を来年度も企画しています。

自然の不思議をたんけんしよう

衛星通信を利用した体験学習講座報告

1997年12月6日・7日の2日間、国立科学博物館を中心に札幌青少年科学館、富山市科学文化センター、そして当館の4館共同で衛星通信を利用して子ども達を対象にした学習講座を開催しました。

6日の「宇宙たんけん」では、東京、札幌、沖縄会場の3元中継で行われ、日本でも地域によって日の入り時刻が異なることなど、画面を通して感じることができました。沖縄会場の天体観察会は天気にも恵まれ、子ども達に混じってお母さん達からも、木星や土星の輪に歓声が上がっていました。

7日の「自然たんけん」では、グライダーのように飛ぶ種の模型を作って飛ばしたり、土の中の

小さな生き物を顕微鏡を使って観察しました。

両講座とも講座の進行と並行にFAXによる質問の受付も行われ、沖縄の子ども達も積極的に質問しました。講座の時間内に回答がもらえなかった質問は、後日主会場である国立科学博物館から子ども達に直接回答が送られました。



天体観察会

博物館ボランティアの活動



ボランティア事業は、県内の博物館では唯一当館のみで行われています。その内容は一般の人々を対象としたボランティア養成講座と登録ボランティアを対象にした専門講座、展示解説のためのさまざまな解説勉強会を行っています。現在47名の方が登録され、資料収集ボランティアと教育ボ

ランティアに分かれて活動しています。

資料収集ボランティアは毎週水曜日の午前中に学芸員の調査研究活動に必要な資料の収集、収蔵品の整理作業など専門知識を活かした補助的な活動を行っています。

教育ボランティアは展示室での展示解説、文化講座や子ども体験学習教室での補助的な活動、学校の団体見学の際の展示解説や体験コーナーでの指導や解説等を行っています。特に小学校3年生を対象にした民俗室での展示解説はボランティアの皆さんの積極的参加があり、学校の先生方には大変好評を博しています。次年度からは各展示室に解説ボランティアを配置して、来館者へのサービスを高めていく計画を立てています。

博物館シアター

県立博物館では、生涯学習の場として県民のみなさんが気軽に足を運び、博物館を十分に利用いただくため、博物館シアターを平成6年度より、実施いたしております。博物館シアターは、ジャンルにとらわれず、幅広く総合的な内容のものとし、映写会やミニコンサート等を日曜日の午後2時より、実施してまいりました。

平成9年度は、3シリーズに分けて実施し「映像でみるアイヌ文化」シリーズでは、アイヌの生活文化を記録した映像「チセ・ア・カラ」「イヨマンテ」「アイヌの丸木舟」の3本を紹介いたしました。また夏休み親子シアター「手塚治虫の世界」シリーズでは、世界のアニメーションの先駆的存在である手塚治虫の、ダイナミックなストーリー漫画「リボンの騎士」「鉄腕アトム」「ジャングル大帝レオ」の3本を紹介し、多くの親子連れの皆さんに楽しんでいただきました。「日本の名

作」シリーズでは、日本の映画史に残る名作の中から、松本清暉と橋本忍、野村芳太郎の、三人の共作による作品「砂の器」を紹介いたしました。

今年度は3シリーズ、7本の上映会で、1,000人の入場者がありました。

平成10年度のおしらせ

黒澤明の世界II

- ・羅生門 5月17日(日)
- ・野良犬 6月14日(日)

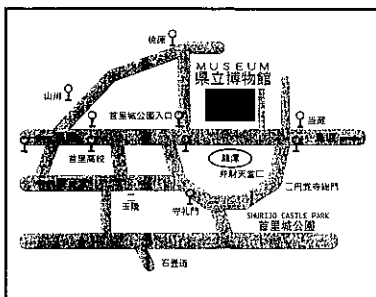
アニメで楽しむ日本の名作

- ・二十四の瞳 7月26日(日)
- ・銀河鉄道の夜 8月9日(日)

なつかしの名作

- ・ローマの休日 12月13日(日)

※ 名作品とも午後2時より当館講堂にて1回のみ上映



【交通案内】

一那覇空港発一

- 125番(知花線)「桃原」バス停下車、徒歩10分車
- 102番(空港普天間線)「当歳」バス停下車、徒歩3分

一市内バス一

- 1番(首里線)12番(末吉線) 45番(糸満西原線)
- 13番(牧志線)17番(石川南線) 25番(石川)97番(城大線)
- の「首里城公園入口」、または「桃原」バス停下車、
- 「当歳」バス停下車、徒歩3分 徒歩10分

一市外バス一

沖縄県立博物館だより

No.39

発行年月日：平成10年3月

編集・発行：沖縄県立博物館

住所：〒903-0823

那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353